

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2017年11月2日

報告書名：平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2017年11月2日

事業名	ナンガハル州帰還難民支援 Assistance for the Returnees in Nangahar		5 lines
事業対象地	アフガニスタン ナンガハル州		
事業期間	事業期間：2017年3月26日～2017年8月19日		
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム		
総支出・返還金	総支出：41,453,089円（返還額：3,219,563円）		
プロジェクト目標および、その達成度	58万人の帰還難民（2017年1月25日時点）のうち、ナンガハル州に約278,000人（うち登録難民約116,000人・非登録難民約162,000人）が居住している。支援を受けにくい立場にある非登録難民のうち脆弱層を有する世帯に対する食糧、マットなどの物資、シェルター、水・衛生分野の支援が必要とされていた。パキスタン政府は難民の帰還期限を2017年12月末に延期したため、冬季の終わる3月以降、アフガニスタンへ帰還する難民が増加。本事業は、過去に食糧の支援を受けていない非登録帰還難民および脆弱層を抱えるホストファミリーの生活環境を改善することを目的とした。 ナンガハル州の非登録帰還難民 1,700世帯、ホストファミリー100世帯、計1,800世帯、約13,320人に食糧、物資（プラスチックシート、調理用具）を配布した。		～10 line
実施内容 概要	物資配布 ナンガハル州の Surkrod 郡、Kama 郡、Kot 郡、Behsoot 郡に居住している、計1,800世帯、約13,320名に1世帯あたり、プラスチックシート、調理器具と食糧を配布した。	受益者数 約13,320人	2/3 page
成果	物資配布 <u>「約13,320名に必要な食糧と物資を配布し、彼らの生活環境を改善した。」</u> ナンガハル州の Surkrod 郡、Kama 郡、Kot 郡、Behsoot 郡に居住している、IOM から提供された非登録帰還民のリストの世帯を調査し、1,700世帯とホストファミリー100世帯を選定し、計1,800世帯、約13,320名に1世帯あたり、プラスチックシート、調理器具（釜と茶ポット）と食糧（小麦粉48キロ、米24.5キロ、食用油20キロ、砂糖5キロ、茶1キロ）を配布した。 配布後のインタビュー調査の結果は、世帯構成が8人以下の世帯の		～1page

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2017年11月2日

報告書名：平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	86%が1ヵ月に十分な食糧を得たと回答した。構成人数が9人以上の世帯では、平均20日分の食糧を得たと回答した。	
課題と対応策	活動に関して、以下のような課題が見られた。 <ul style="list-style-type: none">・モニタリング時の質問設定を改善する必要がある。充足数を算出するため、より明確な質問を設定する必要がある。・事業の遅れが発生したことから、現地で活動している関係者・団体の動向把握や関係構築、情報共有の必要性が挙げられる。・実際の対象世帯の平均人数が計画時のものより多く、充足数が低く留まったため、世帯調査の方法を再度検討する必要がある。	1/2
教訓・提言	教訓としては、以下の2点である。OCHAによると1世帯あたりの平均世帯人数は6.8人であったが、配布後のモニタリングによると7.4人であった。このことから充足数が低く留まったため、支援対象者の分析方法を改めて検討する必要がある。 また、他団体の支援との重複を避けるため、対象地の変更を行い当初の計画より遅れが発生した。より脆弱層にアプローチするためにも、OCHAやその他関係セクターとの連携をとる必要がある。	